

授業解説

本校の学校づくりの柱である、「好きなことをする」「人のためにする」「すすんでする」の合言葉が、ようやく学校の基盤になってきたと感じられる公開授業となりました。教職員はもちろんのこと、児童もしっかりと意識している…、というよりも自覚している状況になってきたと感じました。

各授業の様子を振り返ると、

1 学級活動（3）ア 2年2組

2年2組の学級活動（3）アの授業では、「豊かに生きる※学校教育目標」ために、一人一人が自分自身のキャリアを振り返り、理解し、なりたい姿になるために「つきたい力」や「得たい価値」をとらえることができるよう工夫をしました。

なぜ、本校では、このような工夫をするのか、なりたい「職業」を一直線に目指すキャリア教育を行わないのかには理由があります。児童のなりたい姿を「職業」と限定してしまうと、低学年児童（小学生）にとっては、この先どうなるかわからない（不透明で見えにくい）かなり遠いぼんやりとした目標を目指すことに価値づけがされてしまうこととなります。目標と目指す姿（年度末の自分の姿）がかけ離れてしまい、何のためにするのかが見えずに、今何をするのかという行動のみに意識がいてしまうからです。

そこで本時では、3年生への「スパイ活動」を通じて、目の前の目標をしっかり見つめることで、自分のすぐ近くに「なりたい自分（すごい3年生）※ロールモデル」を設定し、そうなるために自分がつけた力や得たい価値を考えるようにしています。そして、その力や価値をどのように獲得していきたいのかという具体（行動）を「見つける」ことで、明日からの自分の行動を「決める」ことができるよう構成されています。

小学校でのキャリア教育の実践は、なりたい「職業」をメインにするのではなく、今の自分がなりたい姿を中心として、つきたい力や得たい価値を広げていき、日々の生活の中で意識（自覚）して獲得していこうとする、起点（または振り返りポイント）として「学級活動（3）アの自己実現」の実践を行うことが大切であると考えています。

本時の授業は、その考え方のもとに構成されており、その上で一人一人の学び（目標設定）にととめず、学級のよさを生かすことが学級活動の強みであると捉えて、児童相互のやりとり（交流）を意図的に取り入れています。

ともすると、なりたい自分とそのためにつきたい力や得たい価値、それをどうやって獲得するのかは、一人一人が考えることになりそうですが、そこで閉じてしまうと独りよがりの実践になってしまい、結局のところは自己実現ではなく自己満足で終わってしまうことが往々にしてあります。

そうならないために、実践（授業）の中に意図的に「協働」の場面を入れ、一人一人が「つきたい力」や「得たい価値」を共有することで、他者との関わりの中で得ようとする視点が生まれ、お互いに交わりながら高め合っていく「集団の営み」の中での一人一人のキャリア形成の場を設定することができるのだと思っています。

ホワイトボードに全員の分のシートを貼ったのも、他者とのつながりを意識する中で自己実現を果たしてほしいとの思いからです。



授業スタート



つかむ（3年生の姿）



さぐる（つきたい力）



さぐる（自分で）



さぐる（自分で）



見つける（交流）



見つける（交流）



決める（全員宣言）

2 学級活動（3）イ 6年2組

6年2組の学級活動（3）イの授業は、本校で今年度から取り組んだ「イワスタ」「スタプロ」の実践が土台となっています。

○イワスタ

イワスタとは、高学年の児童を指す。イワスタにはそれぞれ意味があり、「イワ」は、岩倉北小学校であり、「スタ」は、スター（岩倉北小学校の輝くスターになる）やスタイル（岩倉北小の型や形をつくる）、スタッフ（行事やイベントを企画し、みんなを支えるスタッフになる）という思いが込められた名称となっている。

○スタプロ

委員会活動（スタプロ）とは、イワスタプロジェクトの略。児童会活動のうちの高学年が担う委員会活動にあたる。今年度は従来の委員会活動を廃止し、児童自身が「よりよい岩倉北小学校を自分達の手で創る」との考えのもとに、岩倉北小の児童にとって学校生活がより楽しく、より充実したものにするためのイワスタの「係活動」として、学校内の仕事を分担し、よりよい学校を目指し、主体的な取り組みが日々行われている。

○運動会スタプロ

運動会スタプロとは、スタプロの派生モデルであり、運動会を円滑に運営し、スローガンの達成に向けて必要だと考えた運動会係活動のこと。

スタプロの理念、「より良い学校を自分たちの手で創る」を自覚し、6年児童として最後に「やってみたいこと（やるべきこと・伝えるべき価値）」を相談し、協働し、創り上げていくことに喜びと価値を感じることができる「イワスタ合宿」の目的を設定するスタートに位置付けた実践になっています。

スタプロの取組が進んでいる現在は、児童の中にすでに主体的な社会参画の意識（自覚）は育っており、イワスタ合宿（5・6年生合同宿泊学習）にむけて、目的をもったスタートをどのように切らるのか、自ら進んでスタート地点に立つことが「決める」になるのだと捉えています。

従来の委員会活動のイメージは、学校のための活動であり主体が学校になっています。イワスタでは、その視点（見方・捉え方）を変換して、よりよい学校を創るための主体者は児童一人一人であるとし、そのことを児童自身が自覚したときにより主体的な状況が生まれ、「好きなことをする」「人のためにする」「すすんでする」をかなえていこうとする学校を創ることになるのだと考えています。

本時で、児童と担任が目的を失うことなくブレなかったのは、学校のためにという滅私奉公的な意義づけではなく、学校を創る主体者としての自覚があったからこそだと思います。社会参画や委員会活動を滅私奉公や義務として捉えてしまうと主体的な部分は一切なくなりますから、そこがブレなかったのが一番の成果であると思っています。

その一方で、スタプロや運動会スタプロの価値には児童間の差があり、イワスタ合宿のスタートが担任の働きかけによる児童も見られました。本校の6年生は、社会参画という視点で、学校のためや集団のために働くことはできますが、主体的かどうか、そのことに価値を感じているのかどうか、そして、自らの成長を感じることができているのかどうかは、個々で大きな違いがあると思います。だからこそ、児童が記す振り返り（しおり等）の中で担任が丁寧にキャリアカウンセリングを行うことが重要であると考えています。（※運動会ノートで担任との関わりが児童の成長につながっていた）



イワスタ合宿にむけての教室掲示



つかむ（6年生アンケート）



つかむ（5年生アンケート）



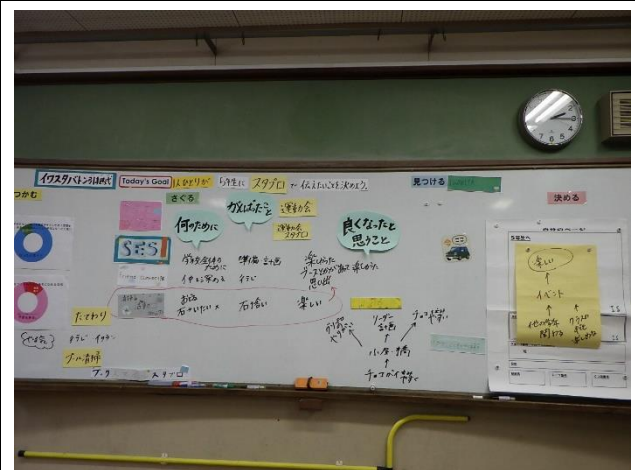
さぐる（スタプロ別交流）



見つける（スタプロ別）



決める（イワスタ合宿しおり記入）



板書

3 学級活動（3）ウ 3年1組

3年1組の学級活動（3）ウの授業は、主体的な学習態度の形成として、自主学習を取り上げています。これまでの自主学習のめあてを「成長の手」として分類しており、「がんばる手」「チャレンジの手」「みちびく手」のどの手を得るためにどんな自主学習に取り組んでいきたいかを考える授業になっています。

なりたい自分を獲得したい「成長の手」として捉えているイメージです。自主学習を行う目的と意味を、児童自身が設定して取り組むことで主体的な学習態度の形成につなげようとしています。また、「成長の手」という学級で共有できる価値を設定して、それを獲得していくことが、なりたい自分へのステップ（キャリア発達）となっているので、「何のため」に自主学習をするのかが、学級全体で理解されている状況になっています。

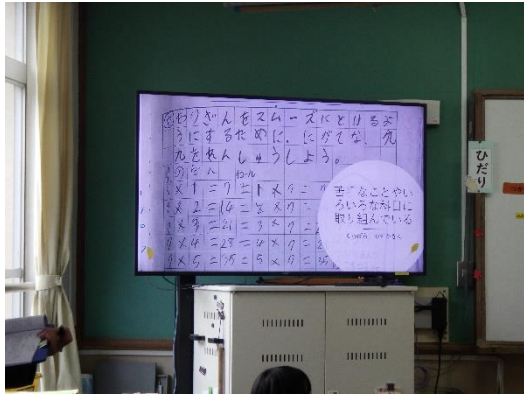
学級内で、この共通理解があるというのは、3年1組の最大に強みであり、主体的な態度の形成の土台となるものです。この土台（自主学習の目的）が不明確なまま、することだけを見ると自主学習の内容論となり、「何のために」が抜けてしまいます。「何のために」とは、なりたい自分になるためと直結するものなので、「つかむ」と「さぐる」で十分に共有されなくてはなりません。本時の「つかむ」と「さぐる」で、自主学習の振り返りと目的（成長の手の獲得）を考えたのは、そのためです。その上で、「見つける」では、具体的に目的達成のための行動を見つけてことになるので、目的と実践が乖離することなく考えることができます。そして、最後に「決める」で、明日からやっというと思うことを「決める」ので、とてもすっきりとした構成になっています。

一方、研究協議会では、自主学習の内容の協議になってしまい、主体的な学習態度の形成のしかけとしての学級活動（3）ウをどのように捉えていくのかが十分に協議することができませんでした。これは、まだまだ、教員側が自主学習の内容を重視して、目的をとらえることができていないためだと考えます。今後のキャリアカウンセリングのポイントを内容ではなく目的達成にシフトする、3年生の実践で言えば、「成長の手」の実現度で語り合うようにできたらと思います。

さらに、3年生の身近なロールモデルとして、4年生の自主学習ノートをどんどん活用することも重要だと思います。これは、3年生にとってのロールモデルという視点だけでなく、4年生にとっても自分の自主学習を振り返り、なりたい自分にむかって主体的に取り組むことができているのか、また、それが実現しているのか、そして、その成果を3年生に見せることができるのかといった4年生ならではの（上の学年としてのプライド）の取組になると考えます。

また、主体的な学習態度の形成は、「学習計画」というなりたい自分の姿にむかうロードマップをつくる力をつける部分も重要です。各教科の学習計画づくりもキャリア教育と直結するものであり、学級活動（3）ウでつけた力を発揮する場面でもあると思います。

主体的な学習＝自主学習ではなく、児童自身が常に学びの主体者になっているのか、また、指導者自身も児童を学びの主体者として捉えているのかを児童とともに問い続けることが大切であると考えています。そうすると、3年1組の教室掲示で「成長の手」にたくさんのシールが貼られていたのは、常にそのことを意識している学級であることの表れになります。



つかむ（現状）



めあて



さぐる（成長の手）



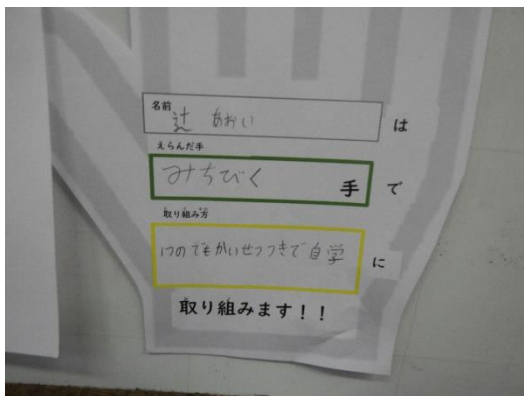
さぐる（成長の手）



見つける（自主学習紹介）



見つける（交流）



決める（成長の手）



板書

指導案集

第2学年2組 学級活動（3）指導案

令和3年12月8日（水）第5校時

授業者 教諭 樋口 ななほ

1 題材 「なりたい自分にパワーアップ！」 ー冬休みにむけてスマイルダッシュだ！ー

（ア） 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

2 題材について

（1） 児童の実態

本学級の児童は、素直で前向きに様々な活動に取り組むことができる。また、友達同士の関わり合いもよく、児童から進んで友達の「いいところ」を見つけようとする姿が見られる。

しかし、自分の意見を出しにくかったり、自信のないことには挑戦しなかったりする児童もいる。そこで、休憩時間などに児童の明るい話が聞ける場を設定し、話しやすい雰囲気を作ってきた。また、全ての学習活動の中で、多様な意見があることの大切さに気づかせたり、グループ活動やペア活動などの話し合いを多く取り入れたりすることで、一人一人が意見を出し合う場づくりをすすめてきた。

そして、自分のよさ・可能性に気づかせ、自信を持たせるために、行事・学期ごとには振り返りシートを作成し、できるようになったことや頑張ったことを書きとめ、それらを友達と交流し、新たな自分の可能性を見いだしたり、自分や友達のよさを認めたりできるようにしてきた。さらに、振り返りシートだけではなく、交流した他学年にもコメントを書いたり、その時に感じた素直な気持ちを書きとめたりすることで、上級生に対する憧れをもつことができ、下級生には、次年度の姿を示すことができた。また、保護者にもコメントを書いてもらい次への励みになるようにした。児童は、2学期になり、学習面でも生活面でも自分に力が付いてきたことを感じている。

今回の授業では、3年生との交流を通して、3年生の「すごい」ところをつかみ、今の自分たちと比べて「すごい」と思えるところをさぐり、なりたい3年生にむけて、さらにパワーアップするために自分の可能性を信じ「やってみたい」ことを見つけてほしいと考える。

（2） 題材設定の理由

本題材では、目標設定や意思決定を通して自己への理解を深め、なりたい自分に向けて主体的に活動しようとする態度を養うことをねらいとする。これまで、1学期から行っている「いいところ見つけ」の取組や、生活科の「広がれ わたし」の単元で、今までの自分を振り返り、自己の成長を考えることで、自分のよさや現状を知る活動をしてきた。また、一週間のめあてを自分で考え、それを踏まえてその週を振り返り、次のめあてにつなげるという活動を通して、児童が「自分」と向き合い、自分に合った目標を立て、目標の達成を目指して主体的に行動しようとする態度を養ってきた。

これらの活動の積み重ねを生かして、本時では、3年生との交流を通して、自分がなりたい

姿を明確化し、なりたい姿に近づくために、どのようなことに取り組んでいくのかを考え、交流することで意思決定する。この活動は、今後に向けての姿や心構えに対して具体的なイメージをもたせ、よりよい自分になるために取り組んでいくことを意思決定する力を高め、自分の将来に向けて意欲をもって生活していこうとする態度を養う上で大切だと考える。

そして、冬休みまでの時間を大切に過ごし、3学期には、3年生になる前の準備期間として、来年度の3年生の生活が素晴らしいものになるように「今からやってみよう」と思うことを意思決定できるようにしたい。

3 第1学年及び第2学年の評価規準「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」

観点	よりよい生活を築くための知識・理解	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生活するために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて進んで行動しようとしている。

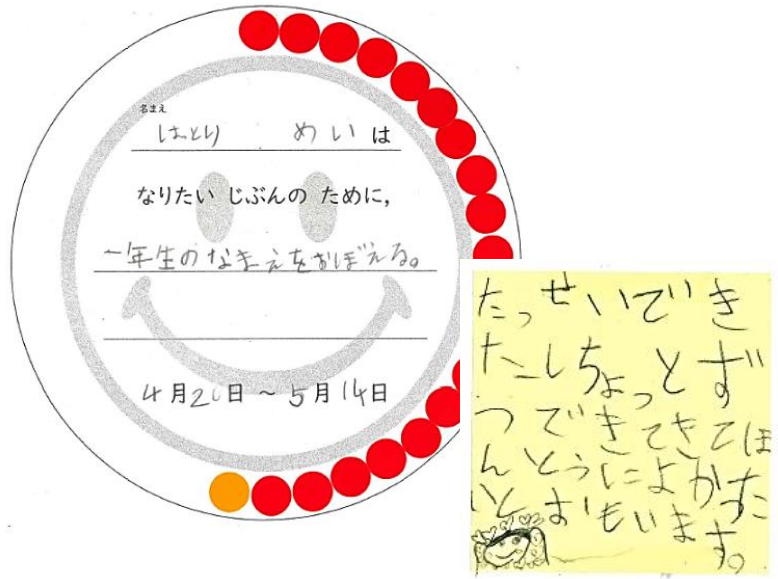
4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
<ul style="list-style-type: none"> ・1学期 「なりたい自分になるために、はじめの一步を踏み出そう」 ・生活科：広がれわたし ・いいところ見つけ ・毎週の振り返り ・なりたい自分について考えるアンケート ・3年生との交流（授業を見る等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科で今までの自分を振り返る活動や、3年生と交流する活動を通して、自分のなりたい姿をとらえることができるようにする。 	<p>◎毎週の振り返りや3年生との交流を通して、自己への理解を深め、3年生へのあこがれをもつことができる。【主体的態度】〈アンケート、振り返りシート〉</p>

◎1学期 学活3（ア）

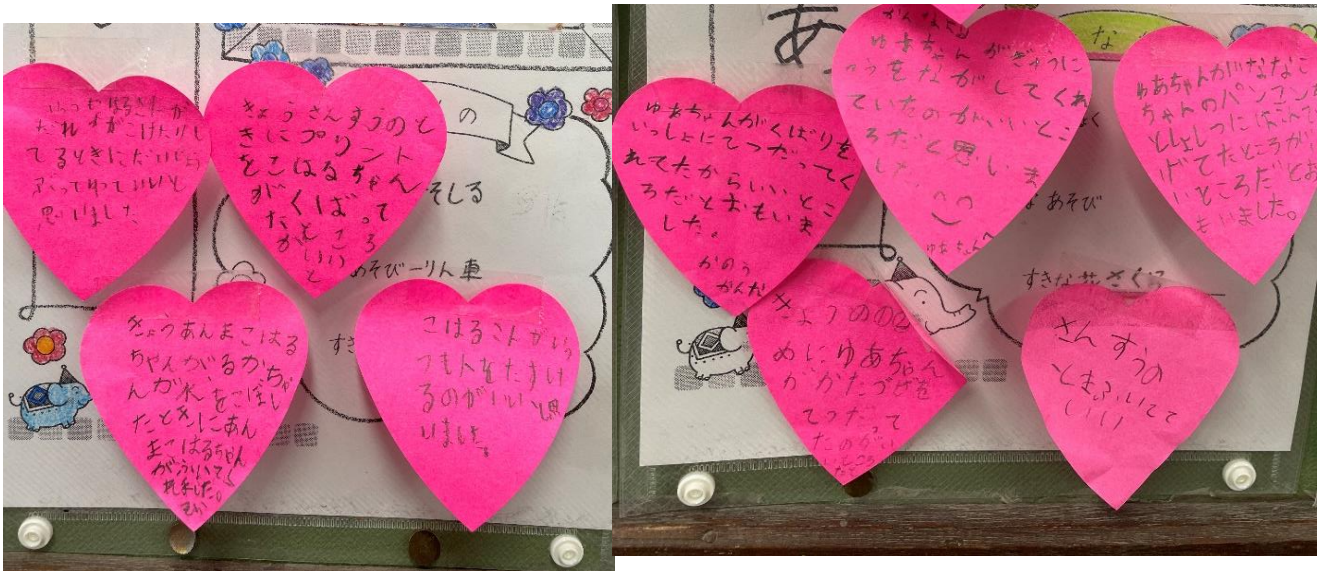
「なりたい自分になるために、はじめの一步をふみだそう」

この活動では、4月にキャリアパスポートに記入したなりたい自分になるために、やってみたいことを決め、約14日間取り組んだ。シールを貼って、毎日の振り返りを可視化し、最後には、めあてに対する振り返りを行い、児童は、自分で立てた目標を達成した喜びや、これからの生活につなげたいというような前向きな気持ちを書きとめた。



◎いいところ見つけ

毎日の帰りの会で、その日の日直のいいところを発表したり、それ以外に見つけないいいところを発表したりする活動を行い、児童が進んで、お互いのいいところを見つけようとする姿勢が見られるようになった。



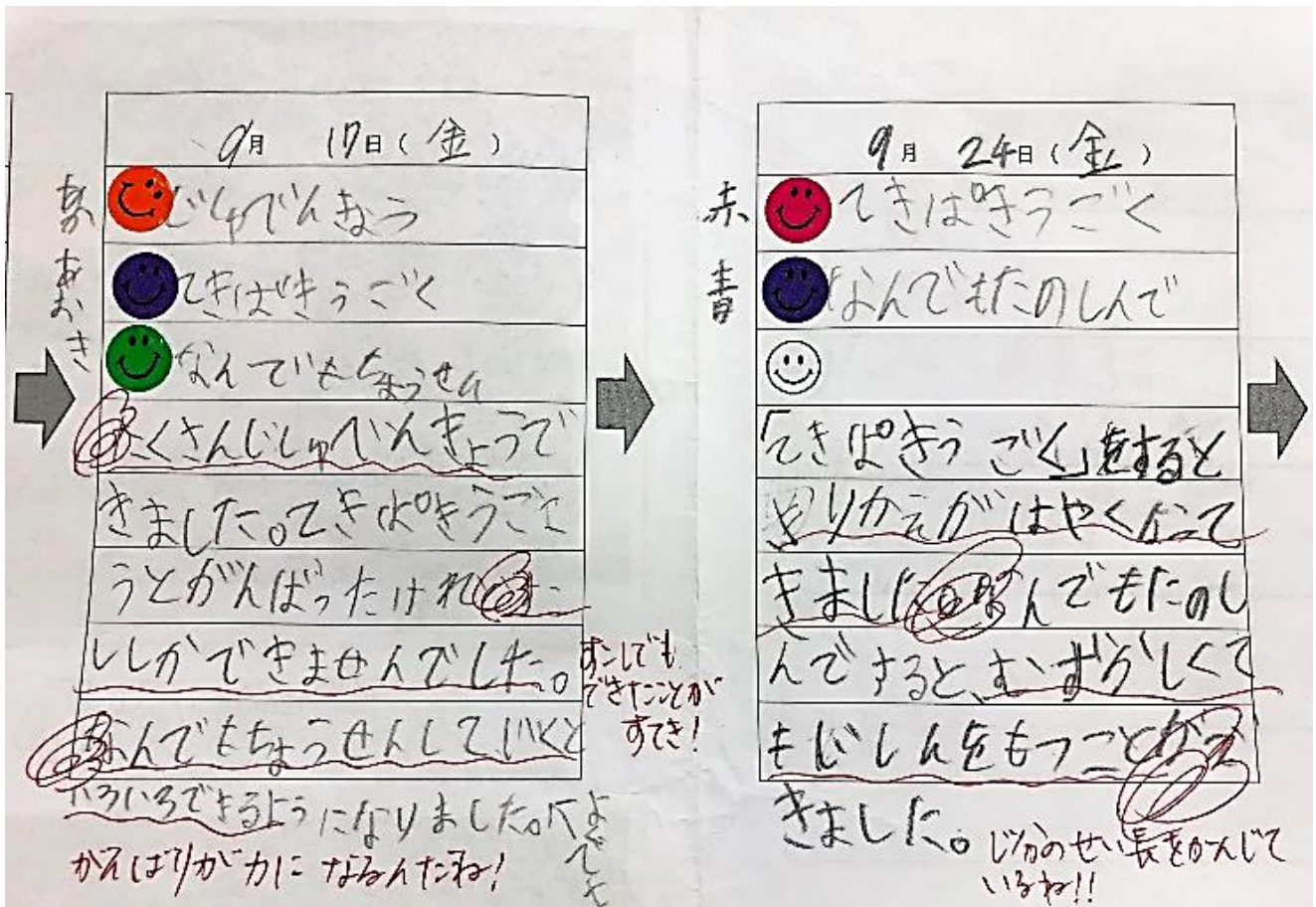
◎3年生との交流

1学期には、クイズショーに参加し、2学期には、3年生が作ってくれた巨大迷路で遊び、運動会では、3・4年生の団体演技を見て、「自分たちもこんな風になりたい」と強いあこがれを抱くことができた。また、普段の授業を見学し、3年生にあこがれを持つことで、2年生としての「なりたい姿」を明確にできるようになってきた。



◎毎週のふりかえり

2学期は、児童が「自分」と向き合うことで、自分に合った目標を立て、目標の達成を目指して主体的に行動しようとする態度を養うために、1週間ごとに自分のめあてを決め、金曜日にふり返りを行った。月ごとにテーマを決めて、めあてを考えた。9月は取組に慣れること、10月は、クラス目標を土台に、11月は、2学期の自分のめあてを再認識して、そして、12月は4月に決めた「なりたい自分」を意識しためあてを立てた。初めは、「できた／できなかった」「うれしかった」という定型句のふり返りが多かったが、担任が目標に対する丁寧なふりかえりを紹介して価値づけたり、友達同士で振り返りカードを読み合ったりする中で、次第に、1週間のめあてに対して、どんなことをしたかや、わかったこと、できたこと、どんな気持ちかなどを書きとめるができるようになり、少しまつ視点を広げたり、深めたりしている様子が



5 本時のねらい

なりたい3年生になるために、やってみたい取り組みを意思決定することができる。

【思考力・判断力・表現力】

6 本時の展開

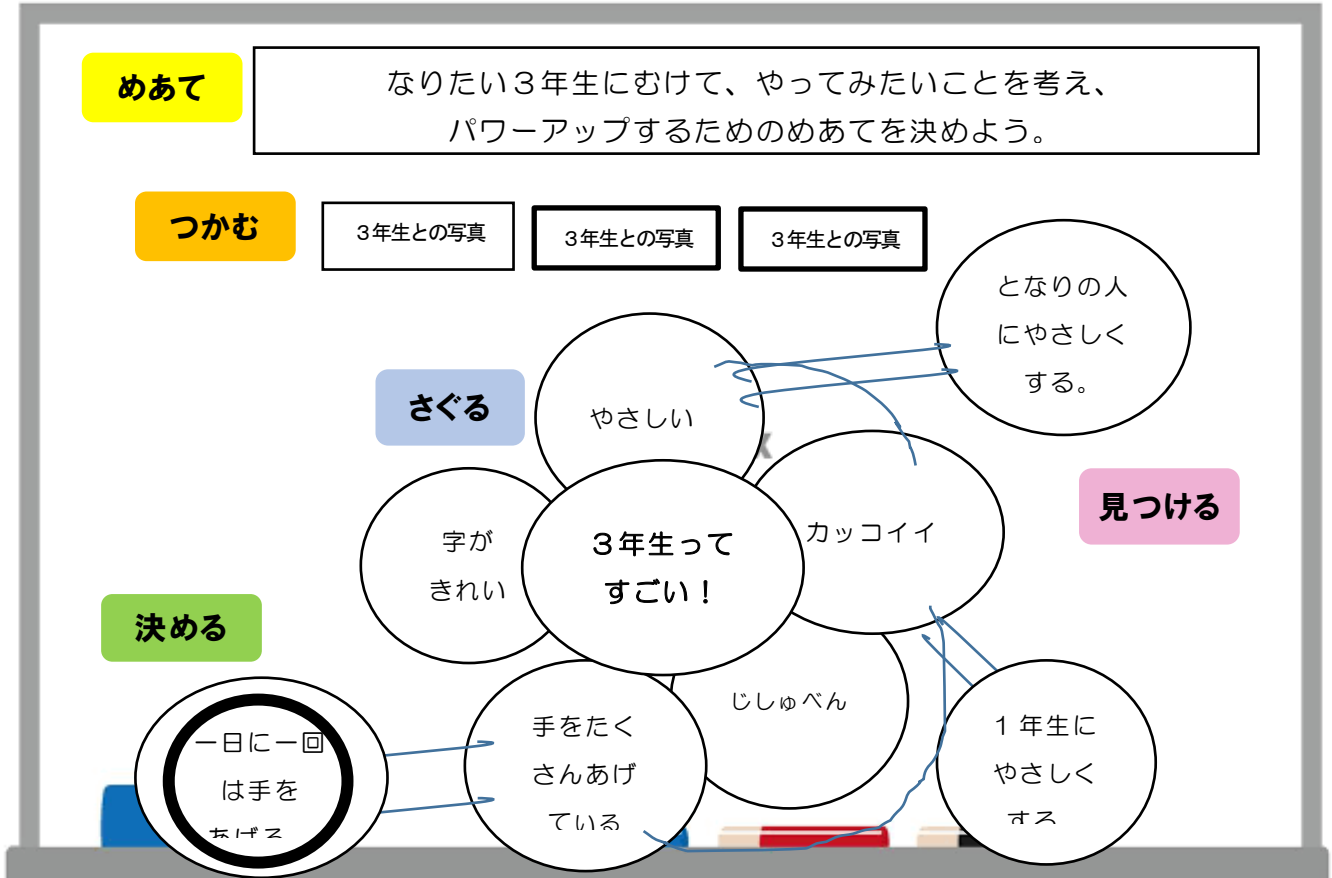
	児童の活動	○指導上の留意	資料	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
導入 つかむ ⑩	・3年生との交流をふりかえる。	○今の自分と比べて3年生のすごさを実感できるようにこれまでの3年生との交流を振り返る。	・3年生との交流の様子が見える写真	
展開 わかる ⑩	・3年生との交流を通して、感じたことを踏まえて、3年生のすごいところをさぐる。	○3年生との交流を通して、感じたことやそのときの気持ちを思い出し、3年生のすごいところを見つけることができるようにする。	・ワークシート	【思考力・判断力・表現力等】 ◎3年生のすごいところに気づき、ワークシートに記入できている。 【主体的態度】 〈観察・ワークシート〉
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> なりたい3年生にむけてやってみたいことを考えて、パワーアップするためのめあてを決めよう。 </div>				
展開 見つける ⑮	・なりたい3年生に近づくためにやってみたいことを考え、交流する。	○メッセージマップを使用して、なりたい3年生に近づくために自分がやってみたいことを考えられるようにする。 ○迷っている子が他の児童と話すことで自分のやってみたいことが見つかるようにする。		◎なりたい3年生になるための具体的な取り組みを考え、ワークシートに記入し、交流することができる。【主体的態度】 〈観察・ワークシート〉

終末 決める ⑩	・やってみたいことの中から、まずチャレンジしたいことを決める。	○ここまで自分で考えたことや交流を通して、まずチャレンジしてみたいことを決め、視覚的にわかるようにする。	◎交流したことを生かして、自分が実践することを意思決定している。【思考・判断・表現】〈観察・ワークシート〉
-----------------------	---------------------------------	--	---

7 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
○意思決定した取組について、冬休みまでをパワーアップ期間とし、毎日振り返る。	○意思決定した具体的な行動への意欲を高めさせるために、日々の様子を観察し、意識的に取り組んでいる児童を学級全体に向けて紹介する。	○意思決定したことを実践している。【思考・判断・表現】〈観察・学習カード〉

8 板書計画



第3学年1組 学級活動(3) 指導案

令和3年12月8日(水)第5校時

授業者 教諭 梶 加奈恵

- 1 題材 「『ステップ アンド ア ステップ』の冬休みの自主学習を考えよう」
(ウ) 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

2 題材について

(1) 児童の実態

「3年生」は教科数が増えて学習内容も難しくなったり、中学年として低学年の見本となったりと新たな一歩を踏み出す学年である。そこで「新しいチャレンジをしてほしい」という願いを込めて学年目標「新たな一歩～どんなことにもチャレンジ～」のもと、「新たな一歩」という言葉を合言葉のように使ってきた。

本学級の児童は、個性的で素直で優しい性格である。誰にでも声をかけて学級の雰囲気をよくしたりまとめたりする児童が中心となり、学級全体がまとまりのある学級となってきた。学級活動では、それぞれの「なりたい3年生」に照らし合わせて「やりたい係活動」に所属したからこそ、イベントに向けて休み時間や学活の時間を使ってみんなが主体的に係活動に取り組んでいる。

国語科「はじめて知ったことを伝えよう」の学習では、図鑑や科学的な読み物を読んで初めて知ったことを2年生に伝えるために、学校図書館やGIGA端末でさらに詳しく調べてクイズやペープサートで伝えて2年生に楽しんでもらった。それゆえ自分の考えをプレゼンすることに自信をもつことができた。

一方で自主学習となると、家庭で主体的に取り組んでくる児童もいるが、習慣的に取り組むことや丁寧に取り組むことが難しい児童も数名いる。そこで本題材をきっかけに一人一人が楽しく主体的に自主学習に取り組むきっかけづくりをしていきたいと考えている。

(2) 題材設定の理由

「3年生」は自我が確立されはじめ、「自分でやってみたい」「一人でできる」といった考えを持つようになり、自立に向けた1歩を踏み出す時期なので学習習慣の基礎となる大切な学年だと考える。そこで、本時において改めて自主学習をしてよかったこと、冬休みの自主学習でどんな学習してどんな姿を目指したいのかを考えることでこれからの家庭での主体的な学習態度を形成することにつながると考え、本題材を設定した。冬休み後にも「新年の一歩～冬休みの自主学習発表会～」を設定して冬休みの頑張りを承認する時間をもちたいと考えている。

本学年では家庭での主体的な学習態度を形成するために、1学期から週末に自主学習に取り組んでいる。「バッチリメニュー(くりかえし練習)」と「わくわくメニュー(しらべ学習など)」の例を紹介し、バランスよく取り組むように声かけしてきた。また学級だよりの裏面には、学級の友だちの自主学習を紹介することで次の週に同じ内容に取り組んでくる児童も多く、友だちの自主学習を参考にしている児童も多い。はじめは学級みんなが楽しく

取り組んでいたが、1学期末から「宿題だから」と惰性で取り組んでいるような様子が見える児童もいた。

そこで2学期から自主学習をブラッシュアップして様々な取り組みをしてきた。①ペアチェックやギャラリーウォークをして友だちの自主学習を見合う、②自主学習の回数の増加、③自主学習カレンダーで取り組み方を記録に残す、④調べ学習の種を授業の中から見つける、⑤グループで助け合いながらテーマを決めて自主学習をしてアドバイスや温かいコメントをする、⑥ロイロノートを使って自主学習を見せあうことで、自主学習への意欲は格段に上がった。

事前のアンケートで「3年生から今までで自主学習をして、あなたにとってよかったことは何ですか。」という質問に、「自主学習を楽しくできるようになった。」「計算がすらすら解けるようになった。」「自分で学習を自由にできるからいろいろなことができる。」と答えており、自主学習を楽しみ、自主学習のよさを実感してきていることがよく分かった。この取り組みをきっかけに、よりいっそう主体的に自主学習をしたい気持ちが芽生えさせられればよいなと思っている。

3 第3学年及び第4学年の評価規準「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」

観点	よりよい生活を築くための知識・理解	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生活するための課題に気付き、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて意欲的に行動しようとしている。

4 事前の指導

事前の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿【観点】〈評価方法〉
・3年生スタートから今までの自主学習での自らの成長を振り返り、自主学習をしてよかったことをアンケートに記入する。	・これまでの自主学習についてのアンケートを用意し、自主学習を通して成長した今の姿をとらえることができるようにする。	◎アンケートに答えることで、3年生スタートから今までの自主学習での成長を振り返り、主体的な自主学習に向けての期待を抱いたりして、学習への見通しをもとうとしている。

5 本時のねらい

3年生スタートから今までの自主学習を通して成長してきたことをふりかえり、よりいっそう自分なりのめあてをもって自主学習ができるようにする。

6 本時の展開

	児童の活動	○指導上の留意	資料	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
導入 つかむ ⑤	<ul style="list-style-type: none"> • これまでに取り組んできた自主学習やアンケート結果から、とても進んで取り組んでいる人がいて、自分に合った取り組み方をしていることをつかむ。 • 毎日進んで取り組んでいるよ。 • 休み時間も進んで取り組んでいるよ。 • 気になったことはすぐにパソコンで調べているよ。 	○事前にアンケートを実施，現在の自主学習の取り組み具合を想起できるようにする。	• 自主学習に関するアンケート結果をまとめた表	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 「成長の手」をもとに，冬休みの自主学習を『ステップ アンド ア ステップ』でステップアップする方法を考えよう。 </div>				
展開 さぐる ⑩	<ul style="list-style-type: none"> • よりいっそう自主学習に進んで取り組めるように，成長の手をもとに組み方をさぐる。(がんばる・みちびく・ちょうせんなど) 	○学級で頑張っている指標(成長の手)をもとに組み方をイメージしやすくする。	• 学習カード	
展開 見つける ⑳	<ul style="list-style-type: none"> • 自分に合った組み方を見つけるために，どのように取り組むかを考える。 • パソコンや図書などいろいろな手段を使って詳しく調べることチャレンジしてみようかな。 • さらに，考えたことをもとに友だちに伝え合ったりノートを見せてもらったりして，考えを広げる。 • 友だちにリコーダーのコツをきいて努力して吹ける曲を増やしたい。 	○これまでに取り組んできた自主学習(側面掲示や自分のノート)をもとに，具体的に考えられるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> • 学習カード • 自主学習ノート 	◎主体的な自主学習の姿を明確にし，そのために必要なことについて前向きに話し合っている。 【主体的態度】 〈観察〉

終末 決める ⑩	・「成長の手」をもとに自分に合った取り組み方を決定する。	○ここまで自分で考えたことや話し合いを生かして、自分に合った取り組み方を学習カードに記入するように伝える。	・学習カード ◎話し合ったことを生かして、自分が実践することを意思決定している。【思考・判断・表現】〈観察・学習カード〉
----------------	------------------------------	---	---

7 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
<p>○決めた成長の手に合わせて、自主学習に試行錯誤しながら1週間取り組む。</p> <p>○冬休みに自主学習に取り組む。</p> <p>○冬休み後に実践発表会をして共有する。</p>	<p>○自分が決めた成長の手に合わせて取り組みたいことに取り組めるようにする。</p> <p>○冬休みの自主学習で頑張ったことや成長した姿をふりかえられるようにする。また、互いに認め合える機会にしたい。</p>	<p>◎意思決定したことを実践している。【思考・判断・表現】〈観察・学習カード〉</p> <p>◎実践を振り返り、今後の主体的な活動に向けて生かそうしている。【主体的な態度】〈観察・学習カード〉</p>

8 板書計画

めあて

『ステップ アンド ア ステップ』の冬休みの自主学習
にするために、自分に合った成長の手を考えよう。

つかむ

自主学習を進んで取り組んでいるか・楽しく取り組んでいるか

アンケート結果

気づいたこと

さぐる

自分に合った取り組み方は？

どりよくの



みちびく手



チャレンジの手



見つける

どのように取り組む？

決める

ふりかえり



第6学年2組 学級活動（3）指導案

令和3年12月8日（水）第5校時

授業者 教諭 多田 千絵

1 題材 「『イワスタバトン引継式』に向けて

自分が引き継ぎたい最高学年としての姿を決めよう」

（イ）社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解

2 題材について

（1）児童の実態

本学級の児童は、授業中は安心できる落ち着いた環境で学習を進めている。今年度は高学年の交換授業を4教科で実施し、教科担任制を取り入れ学年指導体制に力を入れてきた。さらにスクールサポーターや専科教員など様々な教師から学びを教授し、色々な人の価値観に触れる機会が多くあった。児童は教師や友達の話をよく聞いており、ペアやグループで話すことによって自信をつけると、全体での交流も活発に行うことができる。

1学期はじめから、今年度も昨年度に引き続きコロナ禍ではあったが、可能な限りで全校のリーダーとなる5・6年生の繋がりを大切にするために高学年を「イワスタ※1」としてまとめ、活動を進めてきた。1学期には、自分達の活動によって学校がよりよくなることを感じ、目標とする学校像に近づけるためには、どのような「委員会活動(スタプロ)※2」が必要で、それぞれの委員会の中でどのような仕事や役割ができるかを児童自身が考え、発足させた。そして5・6年生が自分達のカラーを認め合い、一人ひとりが自分の力を生かせる場をつくりあげた。委員会活動(スタプロ)の中では、6年生が中心となって委員会活動(スタプロ)を進め、5年生の手本となるような姿を見せられるよう意識し、取り組んでいる。

2学期の運動会では、「運動会スタプロ※3」と位置付けた係活動での活躍がみられた。運動会のスローガン「みんなが主役！全力でつながるつなげる笑顔の輪」に向けて5つの係活動が生まれた。係活動の中では、与えられた役割ではなく、岩倉北小の目指す学校教育目標の中の「好きなことをする」「人のためにする」「すすんでする」ことができる姿（なりたい自分）の視点をもって活動する姿がみられた。5・6年生が運動会の中で全校児童や保護者、地域の人への視点をもちながら、イワスタの一員として学校を盛り上げる楽しさややりがいを感じてきた。

2学期のまとめに向けて、児童はこれまでの活動やこの1年間一生懸命に取り組んできたことを振り返ってきた。これまで学校をよりよいものにするために最高学年として果たしてきた役割を次の最高学年へ伝える準備をしていきたい。

※1「イワスタ」とは、高学年の児童を指す。イワスタのイワ＝岩倉北小学校の・スタ＝スター（岩倉北小学校の輝くスターになる）スタイル（岩倉北小の型や形をつくる）スタッフ（行事やイベントを企画し、みんなを支えるスタッフになる）という意味が込められている。

※2「委員会活動(スタプロ)」とは、イワスタプロジェクトの略。児童会活動のうちの高学年が担う委員会活動にあたる。岩倉北小の児童にとって学校生活がより楽しく、より充実したものになるよう学校内の仕事を分担し、よりよい学校を目指し、主体的に取り組んでいる。

※3「運動会スタプロ」とは、運動会を円滑に運営し、スローガンの達成に向けて必要だと考えた運動会係活動のこと。

(2) 題材設定の理由

この9か月イワスタとして活動をしてきたことで、児童はイワスタの仲間と一緒に学校を盛り上げることができた。よりよい学校にするために自分のよさを生かし、仲間と共に力を合わせて働くことの喜びや大切さを実感してきた。

運動会後には総合的な学習の時間と関連させながら、あと半年で「岩倉北小に何を残していけるのか？」を問いかけてきた。卒業まで残り60日となった今、イワスタの活動も3学期には集大成を迎えることとなる。児童は、委員会活動(スタプロ)のことや運動会での係活動の振り返りから、1年間自分がよりよい学校生活のために最高学年として役割を果たすこと・自分のよさを生かしながら仲間と協力する楽しさ・やりがいを実感している。

5月に予定されていたイワスタオープニングイベントであった「イワスタ合宿」は来年の1月18日～19日に延期となった。その合宿の中ではイワスタエンディングイベント「イワスタバトン引継式」を行う予定である。その引継式では、最高学年である6年生が次の岩倉北小を担う5年生へ決まっている児童会行事や委員会活動を、単に引き継ぐのではなく、学校をよりよいものにするために最高学年として果たしてきた役割やその役割を果たすことによって得たものを5年生へ引き継ぐ式にしたい。

「つかむ」では、前半に事前にとった6年生へのアンケートで、学校をつくり上げる最高学年としての1年間を振り返って岩倉北小学校はよりよい学校になったと実感している児童が多いことを知る。なぜそう思うのかを問い、最高学年として取り組んだ姿が色々な場面であったことを振り返る。また、5年生へのアンケートをもとに5年生自身がもつ最高学年に向けての思いを知る。そこで5年生がもつ学校を担う最高学年に向けての期待や不安を抱えていることが分かる。次に6年生にとったアンケートの質問から、次の岩倉北への思い・5年生や在校生に引き継ぎたい思いをもっているやイワスタ合宿という場面を見通している児童の思いを紹介し、6年生の思いを5年生へ伝えていくことがこれからの自分の役割であるとかかむことができるようにする。

「さぐる」では、岩倉北小学校がよりよい学校になったと考える場面で、それぞれの児童が頑張ったことと伝えたい理由をさぐる。委員会活動(スタプロ)で取り組んだことやイワスタウォークラリー、運動会スタプロや他学年との授業での交流、学校のために行うプール清掃など学校づくりを支えてきたことが多くある。1つの場面においても仲間と協力して作り上げたことや、自分のよさを生かし工夫できたことなど一人ひとり最高学年としてみせる姿は違う。頑張ったことを問いかけ、色々な場面で自分が「取り組んだこと」と「良かったこと」をペアで話し合うことで、伝えたいと思う最高学年としての姿を具体的に、自分に近づけていく。

「見つける」では、頑張ったこと（伝えたい最高学年としての姿）をどのように5年生に伝えるかを問いかけ、伝えたい最高学年として姿から自分が得られた価値を多面的に捉え、実際に伝えることをグループの話し合いを通じて見つけていく。5年生に伝えることとして、自分が頑張ったと思うことだけでなく、自分のためだけでなく低学年や学校のためを思った目的意識があってこそ岩倉北小をよりよい学校にしてきたことを自覚させる。5年生に引き継ぎたい姿とは、引き継ぎたい場面や取り組んだことだけではなく、そこで繋がった他学年児童との関わりや岩倉北小に関わる人との繋がりで得られた価値・やりがいや喜び、岩倉北小がよりよい学校へ近づいたと実感できたことを考えられるようにしたい。グループ交流では、委員会活動(スタプロ)ごとのグループでの話し合い・運動会スタプロ、他イワスタ活動や他学年との授業などでの場面の話し合いの2部に分けて交流し、同じ思いをもって取り組んだ仲間と引き継ぎたい姿を語り合える時間にしたいと考える。

「決める」では、これから5年生へ伝えたいこと、どんな場面で自分は頑張ったのか、そこで果たしてきた役割やその役割を果たすことによって得た自分の姿（なりたい自分）をイワスタ合宿のしおり「5年生へ」の欄に書きまとめる。そしてイワスタ合宿では6年生の思いを伝える場としてイワスタバトン引継式があることを紹介し、伝え方はそれぞれ自分の思いが伝えられる方法をこれから合宿までに考えることを知るようにする。

3 第5学年及び第6年の評価規準「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現 イ」

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生きるための課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。

4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
<ul style="list-style-type: none"> 6年生として次の岩倉北への思い・5年生や在校生に引き継ぎたいことをそれぞれが思っていることを表現できるようなアンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの中で、これまでの自分の頑張りをポートフォリオやキャリアパスポートで振り返った上で、引き継ぎたいと思う姿をイメージできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートに答えることで、今までのイワスタの取組を振り返り、自分の役割を果たすことについて考えることができる。 【主体的な態度】〈アンケート〉

<ul style="list-style-type: none"> 5年生に最高学年に向けての期待や不安、それぞれが抱えていること表現できるようなアンケートをとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生と6年生の立場の違いを明確にし、互いの学年の考えを比べるために、5年生にもアンケートを実施，協力してもらう。 運動会ノートやスタプロ掲示板やカレンダー，キャリアパスポートを活用し，これまでの自分の頑張りに気付くようにする。 	
--	---	--

5 本時のねらい

『イワスタバトン引継式』に向けて，これまでのイワスタでの活動や運動会スタプロなどを振り返って，自分の頑張りや友達の頑張りを認め合い，次の6年生へ引き継ぎたい姿（引き継ぎたい最高学年としての場面，そこで頑張ったこと，伝えたい価値）を決める。

6 本時の展開

	児童の活動	○指導上の留意	資料	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
導入 つかむ ⑩	<p>1 これまでの自分の頑張りに気づき，岩倉北小がよりよい学校へ近づいていると感じる。</p> <p>2 岩倉北小がよりよくなったと感じる場面を振り返る。</p>	<p>○岩倉北小学校はよりよい学校になったと実感している児童が多くいることを知ることができるようグラフにして表すようにする。</p> <p>○最高学年として取り組んだ姿が色々な場面であったことを振り返られるようにキャリアパスポート等を活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> これまでの児童の頑張りやイワスタの軌跡が分かる資料 5，6年それぞれのアンケート結果 	
	<p>3 これから次の6年生へ自分の最高学年としての思いを伝えることが最高学年</p>	<p>○5年生の最高学年に向けての不安を抱えていることに気づくことができるような</p>		

	<p>としての役割だと知る。</p>	<p>アンケート結果をグラフに表す。</p> <p>○6年生には次の岩倉北への思い・5年生や在校生に引き継ぎたいことをそれぞれがもっていることを知るために色々な意見を取り上げる。</p>		
<p>一人ひとりが5年生に伝えたいことを決めよう。</p>				
		<p>○イワスタ合宿など残りの学校行事や学校生活が5・6年の思いを共有できるチャンスだと知り、その実践への意欲を高めていけるようにする。</p> <p>○6年生として5年生へ確実なバトン渡しをするには、1人1人が自分の頑張った場面を想起し、伝えたい姿を一人ひとりが決めるということが最高学年としてのこれからの役割があるということを知らせる。</p>	<p>写真や資料</p> <p>・5年生のアンケート結果</p>	
<p>展開さぐる ⑤</p>	<p>3 自分が引き継ぎたいと考える場面で、頑張ったことを話し合い、伝えたい理由を探っていく。</p>	<p>○イワスタ活動の取組から自分たちの頑張りが学校づくりを支えてきたことを実感し、1つの行事でも自分なりの役割を果たせたことを探ることができるよう言葉かけをする。</p>		

<p>展開見つける⑳</p>	<p>4 引き継ぎたい理由をもとに、5年生に最高学年としてどのように伝えていくか（頑張ったこと・何のために取り組んだのか・そこで得られた価値）を見つける。</p> <p>5 話し合ったことを全体で交流する。</p>	<p>○5年生に伝えるためには、自分のためだけでなく、学校がより良くなったことや他の人との繋がり役になれたことなどを多面的な見方ができるような言葉かけをする。</p> <p>○グループ交流では、話し合いの場を2部に分けて交流し、同じ思いをもって取り組んだ仲間と引き継ぎたい姿を語り合える時間になるようにする。</p> <p>○前半の話し合いのあとに中間評価をし、学校がより良くなったことや他の人との繋がり役になれたことなどを得られた価値を多面的に捉えられている児童を取り上げ、紹介する。</p>	<p>・イワスタ合宿のしおり</p>	<p>◎お互いの思いを聞き合い、アドバイスをしている。 【主体的態度】 〈話し合い〉</p>
<p>終末決める⑩</p>	<p>6 次の6年生へ自分が伝えたいことを決める。</p> <p>7 イワスタ合宿に「イワスタバトン引継式」の時間があることを知る。</p>	<p>○迷っている児童については、引き継ぎたい場面と理由を問いかけ、整理して時間をかけて丁寧に考えられるようにする。</p> <p>○今日決めたことを土台に「イワスタバトン引継式」で6年生の思いを5年生へ引き継ぐこ</p>	<p>・イワスタ合宿しおり</p>	<p>◎話し合ったことを生かして、自分が引き継ぎたい姿を意思決定している。 【思考・判断・表現】 〈観察・ワークシート〉</p>

	8 自分が伝えたいことをイワスタ合宿のしおりに書く。	とを伝えられるようにする。		
--	----------------------------	---------------	--	--

7 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
意思決定した引き継ぎたい「マイバトン」を伝えるための方法を考える。	○教室に一人ひとりの「マイバトン」を掲示するなどして、1月の花背山の家で自分が伝えるんだという意欲付けとなるようにする。	◎意思決定したことを前向きに実践しようとする準備を進めている。【思考・判断・表現】〈観察〉

8 板書計画

